



府 食 第 3 9 号  
令和元年5月23日

食品安全委員会委員長 佐藤 洋 殿

研究・調査企画会議

事前・中間評価部会 座長 山本 茂貴

令和元年度食品健康影響評価技術研究3次公募課題（案）について

このことについて、令和元年5月20日に開催した令和元年度研究・調査企画会議事前・中間評価部会（第1回）における審議の結果、別添のとおり取りまとめましたので、報告いたします。

(別添)

令和元年度

食品健康影響評価技術研究 3 次公募課題 (案)  
について

令和元年 5 月

食品安全委員会 研究・調査企画会議  
事前・中間評価部会

令和元年度食品健康影響評価技術研究の3次公募課題（案）

公募課題	概要
<p>1. ノロウイルスによる健康被害実態及び食品寄与率の推計に関する研究</p>	<p>毎年のノロウイルス感染症の流行時には大規模食中毒事例など健康被害が報告されており、食品衛生の観点からは、ノロウイルス感染症の全体像（ヒト、食品及び環境）及び全体に占める食品が寄与する割合を把握し、その低減を図ることが重要である。また、ノロウイルスによる食中毒発生時の原因として、顕性、不顕性感染の状態にある調理従事者由来とされる事例が多く、大量調理施設衛生管理マニュアルの改訂などの施策が講じられてきたが、現在でも不顕性感染のリスクの状況や有効な対策のあり方については不明な点が多い。</p> <p>そのため、①ノロウイルス感染症の全体像の把握、②ノロウイルス感染症全罹患者数に対する食品由来の者の割合の検討、③大量調理施設における調理従事者の不顕性感染の状況と対策について研究を実施する。</p>
<p>2. アニサキス食中毒におけるリスク評価及びリスク低減策に関する研究</p>	<p>アニサキスが及ぼす健康被害について、リスク評価に必要な汚染実態及びばく露量を調査するとともに、商業施設で行われているリスク低減策の効果を科学的に評価することを目的として、</p> <p>①アニサキス亜科線虫による日本近海魚の汚染状況を総括的に検討するために、太平洋、日本海、東シナ海それぞれの定点となる漁港・漁場の材料について、季節変動も含めた調査、</p> <p>②胃アニサキス症に関連して、消費者が商業施設から購入した魚介類を喫食する際のアニサキスばく露量の推定、</p> <p>③大型商業施設それぞれで独自に行われているリスク低減策に関して、それらのアニサキス検出・除去効果を科学的に検証し、現場で適用可能なリスク低減策を検討、</p> <p>④上記に関連して評価に必要な検査法を作成、に関する研究を実施する。</p>

公募課題	概要
3. ベンチマークドーズ等の算出に用いるソフトウェアに関する研究	<p>化学物質の毒性評価において、ベンチマークドーズ（BMD）法に基づく用量反応評価が可能であり、かつ、近年の同法の論理的発展を踏まえた仕様のソフトウェアを開発することを目的とする。具体的には、近年のBMD法に関する調査・研究結果等を基に、①モデル平均化結果の妥当性及び信頼性をより向上させると考えられる解析条件の検討、②モデル平均化機能及び①で検討した条件を含む各種解析条件を任意に設定可能となる機能の搭載、③食品安全委員会事務局をはじめ一般に広く利用可能なアプリケーション及びインターフェース、のような機能及び仕様上の課題について検討、対応した上で、一般に広く利用可能なソフトウェアを作成する。</p>

(参考)

食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題  
(平成31年度) (平成30年9月4日 食品安全委員会決定) (抜粋)

1 危害要因・ばく露実態の評価に必要な科学的知見の集積

1 研究事業

(4) 食品媒介疾患の原因となる微生物等病原体に関する研究

近年患者数が多く公衆衛生上の重要性が増しているノロウイルスについて、ヒトへの感染経路における食品（カキを中心とした二枚貝とその他の食品別）の寄与率やヒトの症状の有無による食品への汚染の程度を明らかにする研究を実施する。

4 その他

(2) その他食品健康影響評価に関する研究・調査

上記に掲げる研究課題の他、食品安全委員会が必要かつ緊急性があると認める課題について研究・調査を実施する。